

# 平成 30 年度第 1 回 恵那市行財政改革審議会

日 時：平成 30 年 9 月 20 日(木)

午後 2 時 00 分から

場 所：市役所西庁舎 3 階 災害対策室

---

1. 委嘱書の交付
  2. 自己紹介
  3. 会長・副会長の選任
  4. 会長・副会長あいさつ
  5. 副市長あいさつ
  6. 会議の公開、公表について（確認）
  7. 議 事
    - (1) 行財政改革審議会の役割と行財政改革行動計画の概要について  
恵那市行財政改革審議会条例 資料 NO. 1  
第 3 次恵那市行財政改革大綱 資料 NO. 2  
第 3 次恵那市行財政改革行動計画 資料 NO. 3  
第 3 次恵那市行財政改革行動計画（後期） 資料 NO. 4  
恵那市公共施設等総合管理計画 資料 NO. 5
    - (2) 平成 29 年度行財政改革行動計画の達成状況について 資料 NO. 6
    - (3) 平成 29 年度指定管理施設に係るモニタリング結果について 資料 NO. 7
  8. その他  
公共施設の処分（移管）に関する指針の一部改正について
  9. 閉会のあいさつ
- 

## 出席委員

寺澤朝子委員、西尾俊彦委員、伊藤克也委員、矢頭禎朗委員、渡辺哲也委員、  
柘植麻美委員、太田礼子委員、

## 欠席委員

なし

## 1. 委嘱書の交付

■事務局（進行） 資料の確認をする。資料が 9 点ある。次第、資料 1、行財政改革の大綱の冊子、行動計画、行動計画（後期）、公共施設等総合管理計画、平成 29 年度行財政改革行動計画達成状況、指定管理施設モニタリング結果がある。追加で資料 8. 公共施設に関する指針がある。

定刻になったので、これより平成 30 年度第 1 回恵那市行財政改革審議会を開催する。私は企画課の柘植である。

前委員の任期満了に伴い本日出席の 7 名の委員に委嘱書の交付をする。副市長から委嘱書をお渡しするので自席で御起立の上受け取ってください。

[ 副市長から委嘱書を交付 ]

## 2. 自己紹介

■事務局（進行） ありがとうございます。委員から自己紹介をしていただく。

[ 各委員の自己紹介 ]

■事務局（進行） 市の執行部から自己紹介をする。

[ 執行部の自己紹介 ]

## 3. 会長・副会長の選任

■事務局（進行） 会長・副会長の選任を行う。恵那市行財政改革審議会条例第 4 条の規定により、委員は互選で、会長・副会長を各 1 名置くことになっている。選任について御意見はあるか。

■柘植委員 事務局の案があればお願いします。

■事務局（進行） 事務局案という声をいただいたので説明してもよいか。

では、会長を中部大学の寺澤委員に、副会長を地域自治区会長会議の西尾委員にお願いしたい。よろしいか。

[ 発言する者なし（異議なし） ]

■事務局（進行） ありがとうございます。それでは会長は寺澤委員、副会長は西尾委員に決定する。席の移動をお願いします。

#### 4. 会長・副会長あいさつ

■事務局（進行） それでは会長、副会長から一言ずつごあいさつをいただく。

■会長 恵那研修センターに毎年来ている。恵那は日本の原風景のような風景がたくさん広がっている、自然豊かなすばらしいところだと伺った。先日の台風のせいで、かなり倒木の被害があったと伺った。美しい自然と防災に関しては留意すべき点が課題としてあることが分かる。資料を拝読し、私は他市、他県の委員もしているが、人口に対してものすごくたくさんの施設を抱えている市だと感じた。これをこれから先の資源として生かしていくということに関して、少しでもお役に立てればと思う。委員の数が減ったと聞く。少数精鋭になったということで、皆様の忌憚（きたん）のない意見を聞かせていただき、委員会を滞りなく運営したい。

■副会長 7人でも荷が重い。7分の2なら私が受けないといけないかなと思う。会議もそんなに回数があるわけではないと思う。少ない時間の中でしっかり議論ができればいい。私は実は民間であり、公の中身はよく分からない。民間目線で意見を言いたい。

#### 5. 副市長あいさつ

■事務局（進行） 副市長からあいさつをする。

■副市長 特に皆様をお願いしたいのは、行革の中でも定数、人員の管理は内部的なことのできるので、時間外の短縮という視点のものは市役所の中だけで話が進むので、比較的順調に進んでいる。しかし、市民と対話しながら進めなければならない部分があり、そこがなかなか進まない。一方で、今まで施設の管理を、大なたを振るったつもりで指定管理を進めてきた。しかし、ここに来て、残っているものを本当に指定管理にしているのか、直営の方がいいのではないかというのが残ってきた。その辺も皆さんの御意見を伺いながら進めたい。また、指定管理を進めた中でも、他の指定管理先との関係で問題を抱えているものもある。そういうことも議論したい。

今日は企業の皆さんや一般の市民の目線でという話があったが、我々はどうしても公務員の目線で進めたくなるものがあるので、そういう視点で進めてほしいし、柘植委員には税務的な管理の視点でも話をしてほしい。市役所の中では欠けている部分だ。

恵那市で今起こっていることを話す。「半分、青い。」が9月で終わる。この効果は非常にたくさんあった。岩村には4倍ぐらいの観光客が来た。先日の3連休も多く来た。中山道美術館は3割ぐらい多くなり、山岡の寒天館も6割多く、明智のロマン亭も3割、串原の温泉施設はリニューアルしたこともあり2割5分の増収になっている。再来年、NHK大河ドラマで明智光秀がテーマになり、明智町が紹介される。こんな流れに乗っていきたい。

市役所の中では、市民サービスという視点で、月末の日曜日は開庁している。今まで難しいと思っていた。今まで市役所を 1 時間だけ延ばしてサービスに応えようと思ってきたが、今回で 9 回やり非常に多くの人が日曜日に訪れる。

皆さんの意見を尊重して審議会をしっかりとやっていきたい。

## 6. 会議の公開、公表について（確認）

■事務局（進行） 本日の審議会は、恵那市審議会等の会議の公開に関する指針により、会議を公開し傍聴席を設けるとともに、会議の要旨を閲覧に供する。また、議事録作成のために会議内容を録音している。本日の会議は 2 時間を目途とし終了を午後 4 時と予定する。

これより次第に沿って会議を進める。本日は第 1 回なので事務局からの説明が多くある。資料の事前配布により皆さんは目を通されていると思うので、事務局の説明は極力簡潔に行い、委員の提案、意見に時間を取りたい。これ以降の議事進行は慣例により会長に願います。

## 7. 議事

### （1）行財政改革審議会の役割と行財政改革行動計画の概要について

■会長 次第に沿って進める。議題 1 について事務局から説明をお願いします。

[ 事務局から資料に基づき説明 ]

■会長 質問はあるか。

■副会長 32 年度までに個別施設計画を出すということだ。まだ大分あるが、その前に急いでやらなければならないものはないか。

■事務局 国が平成 32 年度の早い時期に作成するよという通知を出している。早ければ 31 年度ぐらいには作成したいが、恵那市中のすべての公共施設、インフラについて、今後どうするかの方針を施設ごとに決めないといけない。1 つずつ審議する必要があるので時間がかかると考えている。公共施設が 450 ほどある。今は、施設が建設されると解体まで 60 年ぐらいと想定して計画を立てている。30 年目で大規模改修、60 年目で更新を考えている。その部分について、改修をするか更新するか、もしくは長寿命化の工事により 60 年を 80 年に延ばす、60 年を迎える前に地元に移譲する、施設の老朽化が進んでいれば解体するなど、そのあたりを詰めていく。個別施設計画は今年度から進める予定だ。

■副会長 長島小学校は大分前からどうするのかという話を出している。市長と語る会が 26 日にあるが、そのときも計画を出すか聞いているが、いつまでに出すのか。委員会を作

るといふことも聞いた。委員会を作る時期も決まっていないうのかという声もある。32年まで答えを待つのかという疑問が湧いた。

■事務局 恵那市としては平成32年度までにすべての施設をどうするか定めたいが、必要があるものについては個別に先行して作る。

■会長 ほかに意見はあるか。

[ 挙手する者なし ]

(2) 平成29年度行財政改革行動計画の達成状況について 資料N0.6

■会長 事務局から説明を求める。

[ 事務局から資料に基づき説明 ]

■会長 質問はないか。いろいろ関心があると思う。

私から確認したい。資料6の1ページ、市民の視点に立った行政サービスの質の向上。今はCで予定どおり進行していないと平成29年度はなっているが、副市長から休日開庁が非常に好評だと伺ったので、これは改善に向かっているという理解をしていいか。

■市民サービス部長 目標が6%で、実際は13%の人が私どもの手続きに不満を感じている。残念だ。今後13%の人がどこに不満なのか知りたいと内部で話をした。独自のアンケートを考えなければならないことと、行財政改革のアンケートの中にこういうことを織り込んでいただきたいと話した。昨年度からの取り組みを説明する。

通常の業務の改善としては、お客様がストレスを感じないところにソファを並べたり、受付された順番を、本当は画像で出すシステムを入れたいが、とりあえずカードでご案内している。フロアマネージャーがカードを渡してカードの手順を進行管理する。

書類の作成は、今までは御相談に応じ受付書類を出して書くのを眺めていて、書いて印を押したら初めてチェックをして手続きを完了していた。改善したのは、すべて必要事項はこちらで入力して、ドコモやAUのように、すべて必要事項を書いてしまって、その書類を見せながら「よろしければサインしてください」という方法に変えた。

もう一つ、お客様のライフワークに応じた窓口対応をしていこうということで、先ほど副市長が説明した日曜開庁、これはシングル親や介護老人を抱えた共稼ぎの夫婦をターゲットに始めた。月に1日、好評なら回数を増やすつもりで始めた。利用者が多い。そういうことを検証しながら今後進めたい。

電子申請は社会がそうなるので、マイナンバーカードを利用したコンビニ交付をしようとしたが、システム構成にお金がかかることと、マイナンバーカードが普及してな

い段階でそれを入れても利用者が少ないので、それをいつにするかは検討している。

16%は遺憾であるが改善したい。

■会長 書類を記入してあげて確認するだけというのは、高齢者にとって大変有り難いサービスだ。

委員からの質問を受けたい。

■副会長 今のことに関連して、「やや不満」と「不満」が、29年度13%、最終的に3%。この計画に無理があると思う。100人いて3人以下にするという。いろいろなことを言う人がいるので無理だ。私は市役所に行くとき対応がいいと思う。努力してもらうことは必要だが、ずっと10%ぐらいでいい。

■会長 伊藤委員から順に発言してほしい。

■伊藤委員 私は何年か消防に携わり、消防団も6年やった。消防団の人数が少なくなっていると思う。そこへの市のお金のかけ方はどうか。消防団は土日も動いている。私ども企業も、工場に280人いるうちの25人が消防団に在籍している。何かあれば公休で活動してもらおう。消防団の待遇面について聞きたい。

■消防長 日頃御協力ありがとうございます。消防団への報酬や手当を含めた負担軽減について、消防団で活性化部会を立ち上げ、随時検討していただいている。消防団への報酬は出ているが基本的にはボランティアの意識で活動いただいている。行政として指導していく部分はあるが、消防団の中でどうしていくかという自主的な対応として活性化部会がある。人数も減ってきており、各分団で、年齢のため退団する人もいるが、通常の訓練には参加せず方が一の災害の先に出るという機能別消防団員の制度も数年前に立ち上げた。その方へは指導手当を出している。人数の少ない団員であり、先般の災害でも多数出動いただいた。市民の安心安全を守るためにこれからも改善して行きたい。

■会長 行革としては、47、48番で消防施設のあり方、器具庫の統廃合に触れられている消防団全体の処遇の改善について御指摘いただいたので、必要であれば今後課題としてほしい。

■矢頭委員 2つ述べる。

市民サービスの件。副会長の言われるのももっともだと思う。いろいろ活動をされて評価の良いものもかなり増えている。特に休日開庁など。窓口サービス向上チームの中の議論としてたくさん出てきた中のものを実践しているものなのか。どういうものが今後やるものとして出てきているか。

もう1点。今後、職員の質の向上を図るとある。職員の、行政という自分の会社の状況、あとは市の状況の把握はされていくのか。今年、我々の明光化成を含め、豊田市に本社があるが、そこでは組織の効果性サーベイに取り組んでいる。それは、自分の会社を社員がどう思っているかを吸い上げて幹部が集まって議題を出し合ってやっていくという活動を

している。職員の質を上げるには職員が何を考えているか知ることが一番大事だ。その辺に今どう取り組まれているか。

もう1点。15ページの老朽化住宅の取り壊し。定住している人が多く撤去できないということは前から聞いている。これも諦めず、毎年この家にはこういう話をしたという実績を残すべきだ。その結果、住居している人がどういう感覚を持てるかが出るかもしれない。定期的にアプローチすべきだ。必ず人の気持ちは変わる。もうそろそろ出ないとまずいかなと思うこともある。ここを、もう少し具体的な方法を出すと、少しでも進むと思う。もちろん老朽化しているので、昨年から地震が多いので、悲惨なことは回避したい。そこを検討してほしい。

■市民サービス部長 委員会で検討していることは、先ほど話した内容は委員会の若い人が何度も勤務時間外に集まって検討してきたことだ。

この委員会は今後の方向は、待ち時間をしっかり把握する。よくお寿司屋さんで待ち時間が出る。ああいうのがあるとあまりストレスを感じないので、それをパネル表示にするシステムを考えたい。

内容面は、少子高齢化社会なので、子どもについての手続きと介護の手続きはできるだけ日曜開庁をもう1日増やしてスムーズにできるようにしたい。

そのようなことを主に話している。

職員の意識について。集まって話すと最後は、意識が大事だということに行く。どう変わっていけばいいのか。それが行動に表れ、市民に役立つ市役所だという気持ちを持ってもらうためには研修がある。若い人たちなのでなかなか適切な方に行かないが、まず今年は服装ということで、きちんとしたものを身に着けようということで、服装のマニュアルを委員会で作り総務に提案して掲示板にアップしている。が、もう一步踏み込んだところの研修が必要だと考えている。

■総務部長 職員の質の向上について。住民アンケート、市に寄せられる住民の声の中には、職員が暗いとかあいさつがない、通路、階段で伏し目がちにしているという意見をよくいただく。これは言われて久しい。何とかしなければならぬと日頃から考えている。まず初めに、しっかりしたあいさつをしようということは日頃から口を酸っぱくして言っている。それは継続して行う必要があるし、職員の接遇研修も定期的に行いながら気付きを与えていくことも大事だと思っている。

職員の意見の汲み上げ。従来から提案制度があり、事務事業の改善についてボトムアップする制度があるが、この頃下火である。風通しのいい職場であることが大事だと思っている。そこに留意しながら、部課長や部下からの意見を取り入れていきたい。

■建設部長 老朽化住宅の取り壊し。昨年度実績が目標27戸に対して13戸で評価Cである。もう少し計画通りに進めるようにと考えているが、平成24年3月に721戸の公営住宅

があり、それを壊していこうというものが 213 戸あり、最終的に 508 戸にしようという計画だ。委員が言われるように、住宅の何年か一度の契約のとき、老朽化しているので不満も出ており台風のときには雨漏りもあり、そういう不満を聞きに行くのと同時に、そろそろどうかという話をしている。

今日の会議に向けて担当者と話をした。個々の事情は変わってくるのでそのタイミングを逃さずに進めたい。一番大きな問題は年金生活の高齢者がいることと、普通公営住宅はいつの住まいというイメージなのだが、地域によってはそこを定住促進の位置づけで移ってきて終（つい）の住まいにしようと考えている人が結構いるようだ。「今さらどこへ行けと言うんだ」という、このコミュニティに尽くしてきたということと言われる人もある。個人の事情について記録をしっかりと残して対応していく。計画にある 27、31、32、33 というのは、5 年間で全部できたら、5 等分したらこのぐらいにしないと収まらないということで計画を作ったようだ。この計画に沿ってできるようにしたい。

■市民サービス部長 休日開庁については、都合のいい内容の説明ばかりになってしまうが、職員数は増やすことなく休日出た分はすべて代休としてウイークデーに休んでいる。休日来られる人が増えた分、平日の人が減った。その分、平日に事務手続もできるので、今まで残業してやっていたことも勤務時間内にできるので、時間外も減っている。

■会長 業務効率も上がったということでいいことだらけだ。

■太田委員 3 点聞きたい。

1 つ目は、20 番、中学校の適正配置。私も引っ越してくる前から恵南で 1 つの中学校になることは聞いていた。が、今止まっていると保護者が話している。進捗状況では予定どおり進んでいると書いてある。保護者は、市長も変わってこれはなくなったのかという都合のいい解釈になっている。いつぐらいまでに恵那市としては統合していきたいということをお願いしたい。それと、県内の過疎地の小学校で聞いたが、小学校がなくなると公共サービスが低下するので小学校は維持し続けたいと地域づくりを頑張っているところがあった。中学校の場合はそこはあまり考えなくていいのか。

38 番、ふるさと納税。返礼品合戦になっておりホームページであおっているのが好ましくないとも思う。「もの」から「こと」への誘導を意識しているというのはどういう内容なのか。

42 番。生涯学習課管轄の小学校の放課後子ども教室の仕事を私にしている。そこで、学校の参加者に配るお便りをここまで印刷しに来ている。私の家は近いので構わないが、ほかの地域の方は振興事務所で印刷できるといいと思う。生涯学習課は教育委員会なので、予算も違うと思うが。柔軟に対応してもらいたい。

■会長 事務局。

■教育長 南地区の中学校の統合は内部では進めているが市民からは止まっているように

見えることは実感している。平成19年から少子化のシミュレーションをする中で、実施されたのは明智の吉田小学校と明智小学校の統合。その後、南地区も、学年が上がるにしたがって大きな集団で学ばせ切磋琢磨させ、部活動も選択肢を増やす。併せて教職員集団も、恵那市では恵那市を本拠にしている教員が50%を切っているの、県からの計画配置の若い職員や講師で回している。これを集約することで、南地区の中学校も西中学校、東中学校ぐらいの規模にして国社数理英の5教科ぐらいは3、4人の同じ教科の職員をそろえて子どもたちの力をつけていく。そういうソフト面を目指して教育委員会は27、28年の2年間の委員会を経て答申をいただいた。1校に統合するということだ。教育委員会はこれを尊重するという決議をしている。これを市長部局に提示して検討していただく中で、まだ粗い部分があるので、実際にやると提示して心配をいただいたとききちんと答えられる見通しにしると市長から言われて今詰めているところだ。しかしもう3年経つので当時の委員は勇退し、特に委員会のメンバーはPTA会長の方が大半で、子どもが卒業してこういうことから放れている。今、子どもがやろうとしているのは、現在子育て中、これから子育てをする若い世代の意見を収集し、もう一度内部で、教育委員会の立場としては賛成してくれる人を増やす状況にしていきたい。いつ、どう、ということはまだ申し上げられない。

■まちづくり企画部長 ふるさと納税の推進について。達成状況は目標どおり。目標設定が元々低い。現状あまり芳しくない。今年度ふるさと納税の仕組みを大きく変えて現在取り組んでいる。「もの」と「こと」と表現している。「もの」は、これまで17品目の返礼品で魅力に乏しく、地域の特産品をもう少し大々的に出していこうということで、10月1日から、今まで市のホームページ上で募集していたが、大手のふるさと納税のポータルサイト2つのうちの1つのふるさとチョイスを利用して、今市内の商工会議所、商工会、観光協会にお願いして地域の特産品を出していただくということで、募集している。今のところ50、60だが、これを徐々に増やし100以上にして、大きくピーアールしたい。

「こと」から地域を応援していただくということは、出身者が外へ出てふるさとに対してふるさと応援寄付金をいただくのが本来の趣旨だという考え方で、今はクラウドファンディング型の仕組みを作ろうと考えている。特に新たに個人で起業を考えている人や、地域でNPOや任意団体でまちづくりに頑張っている人が新たに資金を得て、新たに事業を興すとか、今やっている活動を広げたいという人を応援していく仕組みで、こういう人を市で募集して、一定基準に合ったものはクラウドファンディング型、インターネット上に載せて、市でお金を集めてそういう方を補助していく。

そういう2つで今年度見直しをしていく。

金額の実績。3カ年分の、個人からの寄付。平成27年度、100件、506万5千円。28年度、98件、601万3千円、29年度、141件、629万9千円。もう一つの指標として、恵那市民が市外へ寄付したとき市民税から控除する額は昨年度2156万5千円。2156万が市民税の

減で、ほかのところからの応援が 629 万 9 千円で、差し引くと 1500 万円の負け越し。これについては交付税等補てんが若干あるので、このままの数字ではない。

振興事務所等での印刷について。

■太田委員 50 枚などの少数だが、地域のことなのでできるといい。

■まちづくり企画部長 それは相談しているか。

■太田委員 一度生涯学習課に、岩村で刷ってもいいか話したら、なかなか手続きがうまくいかず、印刷機が壊れたこともあり、家で刷ったりした。

■まちづくり企画部長 相談していただければ、お金を負担していただいて印刷はしている。直接コミュニティセンターに尋ねてほしい。

■太田委員 分かった。

■柘植委員 C 評価がついているところ。長年審議会をしていて、C のものはずっと C だと感じる。税金の収納率がずっと悪い。水道も。以前も質問したら、改善に向けて努力しているという答えだった。なかなか進まない状況について、原因をどう分析しているか。また、会長に聞きたいが、他市でも良くないのか。

■市民サービス部長 9 ページの一番下、29 年は目標の収納率はクリアしている。今まで滞納した人を回って歩いて、滞納分のいくらかでもいいので払ってくださいというやり方だったが、昨年から預金通帳とか実質的な債権処理の方法に変えたので、微妙に伸びた。過年度は、焦げ付いたり、事情のある人があり、訪問してもなかなか効果が上がらない。それで現年徴収をしっかりしていこうという方針だ。ほかの市の事例も研究し、過年度分の対応をどうするか研究したい。

■水道環境部長 上下水道料金、36 番。水道は昨年度 99.3% で目標に達している。下水は 99.1% で達していないので C になっている。水道は滞納するとその月は水を止めるという通知をしている。分割を含めて対応されないと本当に止めている。

課題は、高額な滞納の人。100 万円を超える人。水道料金で今年の賦課徴収した中で 1700 万ぐらいが滞納。下水は過年度分で 400 万ある。こういう人は分納していただくとか督促している。特に市外に転出した人の捕捉が大変で、過年度分の収納率が 6 割ぐらい。できるだけ一生懸命、督促しながらやっている。

■建設部長 市営住宅の料金は、契約をお互いにしているにもかかわらず滞納がある。正規に払っている人からは非常に批判が多い。現年は収納率がいいが、過年は 32 名が滞納しており、総額 600 万円余。29 年度に徴収できたのがそのうち 45 万円、7.5%。この中で特に収納が難しい人が 6 名おり、大口の滞納者では 1 人 150 万、190 万という人がある。150 万の人は現在も住んでいる。29 年 10 月からは滞納がないが、過年度分は、生活費が苦しいということで分納の相談をしている。190 万の人は亡くなっており、連帯保証人に改めて請求したいと考えている。大口を除くと、少額なので分納を計画的にやるよう個別に回っ

ている。

■会長 他市町村では、収納率の向上、34～37 番、ここまで細かく行政改革の一環として掲げるといことがあまり見られなかったのが驚いた。通常、100%を常に目指すものでどの市町村も水面下で一生懸命努力しているが、行政改革の目標として達成率を一生懸命やっていくような内容なのか。それとも市の自助努力でいろいろなところのケースを見ながら少しずつ上げる努力をして、ここまで細かく分けなくても、すべての滞納分に関しては、こういった形で努力して改善していますということだけでもいいような気がしている。今後行財政改革に関して少し整理していくということなら、収納率に関してどう取り上げていくか、一つ一つ取り上げていくものなのか、再検討していただけるといい。

■渡辺委員 すでに第3次計画が28年度からで道半ばであり、私は4月から委員になったので細かい部分を把握できていない。金融機関は非常に厳しい中でいかに企業として存続するかの業務改革に取り組んでいる。改善改革はいつの時代にもあり、私どもでは過去には縦割りのそれぞれの部署から出てきて委員会を作り定期的に開催してちょっとずつやってきたが、ここへ来てそれでは生ぬるいと業務改革部ができ、横串を挿す形ですべての業務の洗い出しをして月に1回見直しをして把握している。それになぞられえてみると、行政は縦割りの中でいかに横串を挿して、それをどういう頻度でやっていかれるのか。それが無理無駄をなくし市民からの評判がよくなることにつながる。組織としてどう取り組んでいるのか、ビジョンということかもしれないが、聞きたい。

■まちづくり企画部長 資料の1ページの1、2番に関することかと思う。1番は行政評価制度の推進で、28～32年、それぞれやるべき目標が書いてある。これは、総合計画の進化管理という側面もあるので、総合計画は24の基本施策に分かれており、それに関連して事業評価をしていくということで、一つ一つ細かい事業を見ていくとかなり時間がかかるが、29年の取り組み状況もあるが、すべての事業についてヒアリングを行いながら改善指示を行ってきた。

2の業務改善の実施は、対処については全事業の中で1つずつ取り上げてそれについて具体的な研修等をやっていこうということで、昨年度は業務改善の研修を2日間にわたって行った。行政も縦割り組織でこういった横断的に全体を眺めて改善していくといったところは、なかなか簡単そうで難しい。このような行革の推進も、そういったところで一役買って進めていくということかと考えている。

■副会長 3番目の、地域間連携の推進。月に1回所長会議をやられていて、私は自治区の会長会議の準備の会議かと思っていたら違うようなので申し上げたい。地域間連携というのは非常に難しい。なぜかというと、その地域は町の単位になると思うが、人口も組織も違う。一番難しいのは考え方で、伝統というものが入ってくる。今、長島と大井と東野で連携して何かをやったらどうかという話を2年ぐらい前に言ってきた。やはり違いがあ

り難しい。推進ということが所長会議だけで終わっている。もう少し連携を考えるなら、会議のための目標ではなく、何か具体的に一つでも進めてもらえたらいいと思う。

■まちづくり企画部長 先ほどの説明に補足する。今回は行財政改革審議会ということで開催しているが、この下に行革の本部会議があり、ここに集まっているメンバーで年に 2、3 回、内部的に、進捗状況の会議も含めて横断的に連携を取り、特にこの行革の 58 の項目に対して進めていこうと会議をしている。

それから、振興事務所での地域間連携の推進。西尾委員も月 1 回の自治会長会議に出席していただいている。第 2 次総合計画、平成 27 年度に策定して 37 年までの 10 カ年計画だが、その 1 つの大きな柱として、13 地域自治区の制度を進めていただいている。平成 18 年から約 10 年、地域独自のまちづくりに取り組んでいただいていた。第 2 次総合計画に入る中で、もう少し地域を超えた課題を地域間で連携して進めた方がいいということで、盛り込まれた。具体的にあまり活動が見えないという御指摘だが、笠周地域では地域状況が似ており課題が同じだということで、飯地、中野方、笠置の 3 地区連携で地域のまちづくり活動補助金を使っていただいて事業を実施している。なかなかほかの地域へ広げていくところへ発展していけないところについては、第 2 次総合計画では連携を大きなテーマとして取り組んでいるので、関係地域の特に会長には御説明し、今後進めていっていただきたい。

■会長 進捗状況について質問と回答をいただいた。次の議題に入る。この会議が延長すると困る方はあるか。

[ 発言する者なし ]

(3) 平成 29 年度指定管理施設に係るモニタリング結果について 資料 NO.7

■会長 次の議題について事務局から説明を求める。

[ 事務局から資料に基づき説明 ]

■会長 質問はあるか。

大正村コテージこもれびが、昨年、天候によるキャンセルが多くなったということで、今年はずっと悪いのではと思うので、継続的に利用者が減っていくなら、抜本的な改革が必要であること。

それから、デイサービスセンターについては、社会福祉法人の評議員もさせていただいており、やり方次第ということもある。C になっているところは経営上の問題があると思うが、市で今後どう指導したり改善のアドバイスをしていくか。

■商工観光部長 こもればは、今年度も天候に泣かされている。これはやむを得ないと判断している。しかし、今後は、天候には左右されるが、「麒麟が来る」のドラマの明智光秀のゆかりの地として脚光を浴びるので、これを最大限に生かして活用を推進したい。

■医療福祉部長 デイサービスはモニタリングでC以下のところの管理者は社会福祉協議会だ。そこにはほかの施設も受託いただいております、教育体制については整っていると感じている。しかし、利用者が減るといことは何かの努力が足りない。7 ページに記載したとおり、今後の対策は、パートナーとして相談を受けながら一緒になって改善したい。

■会長 山岡デイサービスはNPO法人がやっているところだと思うが。

■医療福祉部長 山岡はNPOまちづくり山岡に委託している。施設長が急に亡くなられた。今新しい施設長になり立て直しを図っている。今後まちづくり山岡との間で連携会議を開いているので、これについても今後一緒になって進めていきたい。

■会長 ほかに委員から質問はあるか。

なければ議事は以上とし、資料について事務局からの説明を求める。

## 8. その他

公共施設の処分（移管）に関する指針の一部改正について

[ 事務局から資料に基づき説明 ]

■会長 委員から質問はあるか。これは公共施設の処分について行革で目標を掲げているが、その指針に変更があったということか。分かった。

■太田委員 まちづくり団体というのは地域自治区団体でないといけないのか。市内全域を見渡したまちづくりをやりたい団体があったとき、この今後の方針には当てはまらないのか。

■財務課長 いろいろな活動範囲、エリアがあるので、活動内容を所在する地域の皆さんに検討いただき、市内全域であるが我が地域のまちづくりにも該当するとか、該当しないがここを拠点として市全体のまちづくりに貢献するなど、いろいろなケースがあろうかと思うので、ケース・バイ・ケースで定義づけしていきたい。

■会長 本日の議事はすべて終了した。進行を事務局に返す。

## 9. 閉会のあいさつ

■事務局（進行） 長時間ありがとうございました。この審議会は必要に応じて開催する。西尾副会長から閉会のあいさつをいただく。

■副会長 慎重審議ありがとうございました。非常に細かい部分にわたって行政改革が着

実に進んでいると感じる。現状維持は衰退ということで、立ち止まったらそれだけ衰えるということになると思うので、確実に前に進んでほしいと思う。

気になるのは、効果は出ていたが費用がどれだけかかるかだ。費用対効果を意識しながら行革を進めていただきたい。感想は以上だ。

本日はありがとうございました。

[ 閉 会 ]